

★異様な雰囲気の中 400mR 準決勝

今大会は400mRに俄然注目が集まった。

準決勝で1組春日部東が41秒41の大会新記録をマークしたことにそれは始まった。

続く2組、栄が40秒91でスタジアムを沸かせた。

そして3組、今度は立教新座が40秒75をマークしたのだ。

★今大会の象徴 男子100m

400mR前の100m準決勝では当然リレーの有望校が顔をそろえた。

10秒68、10秒69、のほぼ同タイムで3組ともゴールし、プラスの最後尾は10秒82というハイレベルなものになった。

迎えた決勝、立教新座は3枚、栄は2枚そろえた。

混戦だったが立教が1、2、6位で3人入賞を決めた。風は一転して向かい風1.2mだったので10秒6台はマークされなかった。

しかしこのレースで明らかに立教新座がスタジアムの雰囲気を把持したのが伝わった。

10秒6～8で4人揃った400mR・・・どう出るか？



★驚異の大会新記録

400mR準決勝はすでに40秒台が複数出ている。注目は俄然タイムに注がれた。
10秒7でそろえる立教新座は圧勝、2m差をつけて安全バトン。タイムは狙っていない
のが分かった。
極めてスムーズに危なげないバトンで圧勝。



速報掲示に観衆がどよめいた。



「40秒71」

ざわついたスタジアムは決勝速報にさらに歓声があがった。

1位 立教新座 40秒69 大会新記録！

県高校記録まで0.1。バトンを責めればすぐにでも更新しそうだった。

以下4着までが大会新記録という珍事。

新規種目でもないのに、上位4チーム新記録とは、なかなか目にしない光景だった。

しかも7位、坂戸西は41秒78。

41秒台で関東に進めないという驚愕のレースであった。

昨今のインターハイでは南関東勢が圧倒的に強く、41秒を切ろうというレベルでみなが揃っている。何が違うのだろう・・・と思っていたが、埼玉の短距離指導者はちゃんと追隨していたのだった。

明らかにリレーのトレーニングで何かが変わったのだろう。
新時代の幕開けを感じた400mRであった。



男子4X100mR			
決 勝			
1	7	立教新座	40.69 GR
2	4	春日部東	41.20 GR
3	6	大宮東	41.25 GR
4	5	埼玉栄	41.36 GR
5	9	昌平	41.71

筆 野本 県大会2 つかみとったマイルリレーへ